



楠地区航空写真 2014.6.25撮影
神戸大学医学部附属地域医療活性化センター (左下)



神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター (ICCRC)
(旧 KIFMEC 病院)



明治2年に開院した神戸病院。手前の建物は番屋でその前の左再山(再度山)の道標は現在も残っている。



昭和5年 病院本館
昭和41年 第一病棟 (左11階建て)



昭和33年12月 医学部本館

目次	ページ
平成29年度一般社団法人神緑会定時(社員)総会並びに学術講演会プログラム(6月17日)	3
卒業式と謝恩会	4
卒業に寄せて 西野 彰悟	5
6年間を振り返って 岩井 優衣	5
平成29年度神戸大学白衣授与式	7
白衣授与式の感想 *太田 毅	9
白衣授与式の感想 *江口茉奈美	9
白衣式を終えて *安部恵里佳	10
平成29年度神戸大学医学部医学科	11
新入生歓迎合宿報告 河野 誠司	11
新入生抱負 *森川 咲希	13
学生生活への期待 *田中 黎	13
神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター開院式 味木 徹夫	14
病院紹介 神戸低侵襲がん医療センター 藤井 正彦	15

目次	ページ
先端緩和医療学分野の紹介 木澤 義之	18
医学教育・大学病院の目から見た今後の医療・地域包括ケアの展望 佐々木昌弘	20
わが母校誕生のころ 中村 和成	22
姫路工大「医学進学課程」の思い出 吉田 浩	26
昭和24年医学専門学校卒業生アルバム 編集委員会	27
神緑会美術展開催のご案内 編集委員会	28
支部だより 第3回 山陰支部総会に出席して 前田 盛	29
75・150周年募金への新たな展開 学部長・病院長と身近な交流を 医学専門学校、県立医大から神戸大学医学部へー 原稿募集	32
編集後記	32

* 学生

神鋼ケアライフは、神戸に根ざして3つの介護付有料老人ホームを運営。
積み重ねてきた実績を活かして、安心・安全・快適な暮らしをサポートしています。



介護付有料老人ホーム ドマーニ神戸

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)



気候が温暖な、神戸市垂水区に立地。
閑静でありながら便利な、
住むのにちょうどいい環境です。

0120(78)6665

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】
●施設の類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式
●利用料の支払い方式/一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上。

【施設概要】●所在地/神戸市垂水区本多間3丁目1番37号●交通/JR「舞子」駅よりバス15分「舞子高校前」下車、徒歩4分(約320m)市営地下鉄「学園都市」駅からバス8分「舞子高校前」下車、徒歩2分(約130m)●構造規模/鉄骨(一部)鉄筋コンクリート造 地上7階・地下1階の1棟、鉄筋コンクリート造 地上10階の1棟●居室数/一般居室195戸、介護居室58室●土地建物の権利形態/土地・建物とも自社所有

平成20年4月撮影



介護付有料老人ホーム エレガノー摩耶

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)



街全体がバリアフリーの神戸市灘区「HAT神戸」に立地。
隣接するクラブハウスで、他世代との交流も楽しめます。

0120(01)4165

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上。

【施設概要】●所在地/神戸市灘区摩耶海岸通1-3-10●交通/JR「灘」駅より徒歩13分(約1km)、阪神「岩屋」駅より徒歩10分(約800m)●構造・規模/鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター東館5階)●総居室数/一般居室134戸・介護居室96室●土地建物の権利形態/土地・建物とも自社所有



平成23年5月撮影



介護付有料老人ホーム エレガノー甲南

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)

六甲の山並みに抱かれた住みよい町、神戸市東灘区に立地。
自立された方も、介護が必要な方も、
生活の状態に合わせてきめ細かく対応します。

0120(65)8208

【神戸市有料老人ホーム 設置運営指導指針による表示事項】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払方法/一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の要件/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上。
【施設概要】●所在地/神戸市東灘区本山南町3-3-1●交通/阪急神戸線「岡本」駅より徒歩15分(約1,180m)、JR神戸線「摂津本山」駅より徒歩12分(約930m)、阪神本線「青木」駅より徒歩9分(約700m)●構造・規模/鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上14階建(ケアセンター地上6階)●総居室数/一般居室105戸・介護居室101室●土地建物の権利形態/土地は普通借地(平成16年契約、所有者は神鋼不動産(株))、建物は自社所有

平成18年4月撮影

■お問い合わせ・資料請求等は、各フリーコールをご利用ください。

【経営・運営主体】(公社)全国有料老人ホーム協会会員・(一社)全国特定施設事業者協議会会員

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目5番1号(国際健康開発センター3階)
TEL.(078)261-6665



【ホームページ】<http://www.s-carelife.co.jp>

平成29年度 一般社団法人 神緑会 定時(社員)総会並びに学術講演会プログラム

平成29年6月17日(土) 於・外来診療棟6階 大講義室

※いつもの会場と異なるので、ご注意ください。

☆定時(社員)総会

(15:00~16:00)

- 議長による開会宣言(会長挨拶)
- 議事録記名人の選出

1 一般社団法人役員選任(選挙)

役員選挙のため、時間を変更することがあります。
議決のため選任が終了するまで議場を閉鎖します。

2 審議事項

- 1) 平成28年度 事業報告について
- 2) 平成28年度 決算報告について
- 3) 平成28年度 公益目的支出計画実施報告について
- 4) 平成28年度 監事監査報告について
- 5) その他

3 委員会報告等

- 1) 学術委員会報告
- 2) 学術誌編集広報委員会報告
- 3) 情報委員会報告
- 4) 名簿編集委員会報告

☆平成29年度 田中千賀子学術奨励賞並びに研究助成金授与式

〈休憩〉

☆学術講演会

(16:15~18:00)

I 田中賞受賞記念講演

(16:15~16:45)

『肺癌放射線治療における放射線肺炎の発症予測に関する研究』

兵庫県立がんセンター 放射線治療科部長 辻野佳世子先生(昭和62年卒)

II 特別講演

(16:50~17:50)

『患者安全と医療の質

—院内医療事故調査委員会に関わった経験から—』

奈良県立病院機構 奈良総合医療センター 総長

群馬大学医学部第三者委員会 委員長

上田裕一先生(昭和51年卒)

☆情報交換会(於:神緑会館多目的ホール)

(18:10~20:00)

卒業式と謝恩会

卒業生の皆さんへ「おめでとうございます」

医学部医学科だけの学位記授与式

(平成29年3月24日)

ワールド記念ホールが満席の全学の式典後、医学科だけの授与式が行われました。「卒業生総数〇〇名、以上後代〇〇〇」の全学の式典と異なり、全卒業生が1名ずつ、的崎医学部長より卒業証書を壇上にあがって受け取りました。他の学部はそれぞれの学部に戻っての授与です。



藤澤病院長を囲む学生



学位記授与式(医学部医学科学生のみ)



学生と恩師の記念写真



学生だけの記念写真

卒業に寄せて

神鋼記念病院 西野 彰 悟 (平成29年卒)

平成29年3月24日、私たち神戸大学医学部50期生は卒業することができました。先生方、職員の方々におかれましては様々な場面で助けていただきました。2回生からの基礎系の授業をはじめ解剖学実習や生化学実習、法医学実習などの様々な実習や、特に基礎配属実習などでは大変お世話になりました。4回生以降、臨床科目を勉強しはじめてからは、授業の他にもOSCE、病棟実習では様々な先生の助けをお借りして充実した実習を送ることができました。他にも6回生では進路を決めるためにチューターの先生方にはたくさん相談に乗っていただきました。その他、大倉山祭などの行事でもたくさんの方々にご支援していただき、ここには書き

きれないほど感謝の念で一杯です。

私は今、研修医一年目として右も左も分からないまま我武者羅に働いています。学生時代とは何もかも違う事ばかりで戸惑う毎日ですが、1日でも早く患者様の助けになれるように努力しています。

これからも様々な困難に立ち向かうこととなると思いますが、神戸大学医学部医学科卒業生であることに誇りを持ち、精進していきたいと思います。

神緑会の皆様におかれましては、これからも様々な場面でお世話になる機会が増えてくると思いますが、どうかその時にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成29年4月

6年間を振り返って

兵庫県立尼崎総合医療センター 岩井 優 依 (平成29年卒)

平成29年3月24日、快晴の空のもと、私たち第50期生は卒業の日を迎え、それぞれの新しい一歩を踏み出しました。6年間、熱心にご指導くださった先生方、お世話になった職員の皆様、そして私を最も近くで見守り、支え、今でも応援してくれる両親に心から感謝しております。

神戸大学で過ごした6年間は多くの思い出に彩られ、ここに書ききることなど到底できませんが、私が神戸大学で医学を学ぶことを選んで本当に良かったと思うことの一つを述べさせていただきたいと思います。

「6年次個別計画実習」。神戸大学では医学生としての最後の一年は、大学病院や外病院、そして海外の病院までも含めて、自分で実習をしたいと思った病院と診療科を選択し、時期を調整して計画を立てるといって、まさしく”オーダーメイド”の一年間となっています。あらかじめ受け入れを申し出てくださいしている病院はもちろん、その他にも個人的に興味のある病院がある場合、自らアポイントメントをとることができれば、そこでの実習を認められま

す。私もシンガポールのNational University Hospitalや、いくつかの外病院で多くの貴重な経験をさせていただきました。

日本中、そして世界中の様々な病院での実習を終えたクラスメート達と再会した時の話は、それはそれは興味深く、刺激的だったことを覚えています。ここまで私たち一人一人の意志を尊重し、協力してくださる大学はなかなか他には聞きません。このような恵まれた環境を与えてくださった神戸大学に心から感謝するとともに、母校としてとても誇りに思っております。

まだまだ語りつくすことのできないほど充実した大学生活でしたが、一つ確信していることは、この6年間を通して経験したこと全てと、先生方、友達、先輩、後輩を含め出会った全ての人々は、この先もずっと私の財産であり、糧であり、支えであり続けるだろうということです。

最後となりましたが、神戸大学と神緑会の益々のご発展とご活躍をお祈りしつつ、私の寄稿とさせていただきます。



学生①グループ



学生②グループ



学生③グループ

●平成29年度神戸大学白衣授与式



司会：河野教務学生委員長



主宰：横崎医学部長



真剣な表情で横崎医学部長の挨拶に聞き入る5回生



着衣中



着衣中

河野先生の司会で、横崎医学部長が挨拶され、順次学生の持参した白衣を学生及び指導教授の協力で着衣し、全員に向けて挨拶の後、指導教授と握手しました。次いで藤澤病院長、前田神緑会長、松浦看護部長が順に祝辞や訓辞を述べました。

すっかり定着した白衣授与式は、平成29年3月30日に大学を中心としたスタッフの出席の中で整然と行われました。大きく違ったのが、司会者でした。他大学の方式からスタートしましたが、本来の趣旨では、先輩から後輩へと白衣は送り伝えられるものとして4年前から神緑会が送ることとしました。



着衣後整列



神緑会前田会長祝辞

平成24年10月16日付で、医学科長、教学委員長、総合臨床教育センター長名で、神緑会に依頼がありました。その中で、2年前に医学部後援会の援助で第一回を挙りましたが、事務処理が煩雑であることを理由に昨年度は学生に白衣を渡すのみとしたと記されています。しかし、本来、白衣式は、講義主体の受け身の教育から臨床配属実習に臨もうとする医師養成課程の大きな区切りの時期を迎える学生を祝うとともに、彼らに古来より連綿と伝えられてきた医の精神をあらためて自覚してもらうことにあり、格式を備えたセレモニーとして行うべきであると記されています。翌年より、神緑会と大学が連携して進んできましたが、その中心であった荊田先生が3月末で退職、開業されました。河野先生に司会が引き継がれましたが、これも必ず経験する流れでしょう。

神戸大学医学部附属病院の基本理念に「倫理」の言葉がでてこないと言われているようですが、その指摘はどんな意味があるのか、学生自身も考えつつ学ぶのでしょうか。学生の感想文に書かれているスチューデントドクターの概念が全国大学に行き渡り、医師国家試験に準じた位置付け（その認定には費用がかかると聞いたことがあります）方法は別に学生の勉学意欲にも役立っているようです。

誓いの言葉を太田クラス代表の指示で全員で読み上げた後、全員での記念撮影を行いました。111名の学生数は過不足のない人数ですが、CBT、OSCEの試験をクリアした喜びと次への緊張がみてとれる楽しい一時でした。先輩諸兄には大学病院と関連病院での指導よろしくお願いします。

編集委員会



藤澤病院長



神緑会前田会長



祝辞：松浦看護部長

宣 誓

我々医学生一同は、誠実さと思いやりの心を持って患者さんに接し、謙虚に学ぶ姿勢を忘れず、医療者としての責任を自覚し、社会に貢献できる医師を目指して臨床実習に臨むことを誓います。

平成29年3月30日 5年生一同



授与式後の記念撮影（大学教育スタッフと、のじぎく会）

● 白衣授与式の感想

神戸大学医学部医学科5回生 太田 毅



5年 太田 毅

平成29年3月30日、CBTとOSCEという2つの大きな試験をなんとか乗り越えて無事5回生となった私たちは、白衣授与式を迎えました。

友達の顔を見て「久しぶり」と挨拶を交すほどは長くなかった春休みを終え、着慣れない

スーツを着て皆、シスメックスホールに集まります。

この式典が終わればよいよ、「スチューデントドクター」としての病院での臨床実習が始まります。

先生方や来賓の方々からのご挨拶、お言葉があり、その後はよいよ白衣の授与です。

111名の新5回生全員が、壇上で直接先生方に白衣を着せて頂きました。

真新しい白衣は左肩のところに大学名が刺繍で記されています。

この白衣は神緑会の先輩方からの寄付によるものと伺い、一層身の引き締まる思いになります。

白衣の授与が終わり、ぼくは学年代表なので前に出て宣誓の音頭をとりました。

111人全員で読み上げるので、まるで卒業式のような気分になりました。

卒業式がひとつの節目であるのと同じように、今回の式典もまた、現場の医療の世界へと歩みだす新たな節目だと感じました。

これから始まる新たな生活に少し緊張もし、そしてそれ以上にわくわくもし、そんな気持ちのまま式典が終わりました。

この文章を書いている今、臨床実習が始まって2週間が過ぎようとしています。

朝の集合時間の早さに驚き、そして手術の時間の長さにも驚き、医者という職業の過酷さ、責任の重さを初めて目の当たりにしました。

病棟では実際に病気で苦しんでいる患者さんともたくさん出会い、自分の無力さをひしひしと痛感



着衣中

し、そして医者になりたいと思って医学部を目指した当時の気持ちをさらに強く感じました。

とにかくいまはまだ毎日ついていくのに精一杯ですが、必死に学び、自分なりにできることをどんどん探して、この日々の貴重な経験を成長の糧にしたいと思います。

そして、この白衣を贈って下さった先輩方の期待に応えられるような立派な医者になります。

最後になりますが、白衣授与式を開催して下さった神緑会の方々や先生方、そして全ての関係者の皆様、本当にありがとうございました。

● 白衣授与式の感想

神戸大学医学部医学科5回生 江口 茉奈美

CBT、OSCEを無事合格しほっとした私は正直参加するまで白衣授与式にそこまで意義を感じていませんでした。しかし実際会場に行ってみると厳かな雰囲気であり、先生方のお話を聞きStudent Doctorとして負うべき責任感というものを知り、そして壇上に上がり先生に立派な白衣を着せて頂くと白衣自体の重さ以上に身の引き締まる思いがしました。

白衣は羽織るだけであれば簡単ですが、周りの人々からはそれだけで医療従事者だという認識で見られます。4回生までの学生への目とは違った目で見られます。BSLではこれまで机の上で勉強してきたことを実際の現場で体験できるのが楽しみだという気持ちも大きいですが、患者さんに勉強のために色々見せて頂くのだからその将来への期待に応えられるよう、より勉学に励まねばという気持ちも高まります。医療人としてのふるまい方も

学んでいければと思います。

最後になりましたが、神緑会の先生方、この白衣授与式に援助くださりありがとうございました。

● 白衣式を終えて

神戸大学医学部医学科5回生 安部 恵里佳

今までにも実習などで白衣を着ることは沢山ありました。しかし、白衣式からは着るときの心の持ちようが変わったように思えます。全員が大学の先生方など医師として大先輩にあたる方々から着させてもらう様子を見て、また自分も白衣を着させてもらい身の引き締まる思いでした。

今までは学生の六年間は長くまだまだ学生だと思っていたのですが、白衣を着たことでもうあと少しで医師として働くのだと実感し、不安も期待もある将来のことについて考えさせられました。まだ私

はどのような医師になりたいのか決め切れていませんが今まで病院行っても患者側だったので、病院側からの視点も踏まえてじっくり考えて生きたいと思っています。

また、キャンパス内を歩いていると学生でのんきにしていたのですが、白衣を着ていると学外の方には病院の関係者と見られるのだと実感したので病院にいるからにはきちんとした態度でいなければと思います。まだまだ白衣の似合うような人にはなれていない未熟さを感じますが色々な知識や経験を積んでいきたいです。

これから白衣式で頂いた白衣を着てこれからの実習で少しでも多くのことを学び、将来に生かせるよう努めたいと思います。最後になりましたが、白衣を下さった神緑会の皆様、ならびに式を行ってくださった全ての方に厚く御礼申し上げますと共に、ご迷惑をおかけすると思いますがこれからのご指導ご鞭撻よろしく願いいたします。

PORTOPIA HOTEL



Hospitality & MICE

国際都市・神戸のリーディングホテルとして
これからも信頼とサービスをお届けしてまいります。

- ポートピアホール1,702席 スクール形式610席
(6ヵ国語同時通訳設備 コンサートホール対応)
- 宴会場36室 屋外・屋内チャペル、神式場
- 客室744室
- 高速LAN全館完備
- エグゼクティブフロア「オーバルクラブ」
- レストラン&バー など13店
- 室内・屋外プール テニスコート ジム サウナ
- エステティックサロン ショッピングアーケード
- 駐車場450台収容
- 「三宮」「新神戸」とホテルを結ぶ
シャトルバス(無料)20分に1本運行中

ご予約・お問い合わせは・・・

Tel.078-302-1111 (代表)

神戸コンベンションコンソーシアム/構成団体



ポートピアホテル

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1

ホームページ <http://www.portopia.co.jp>

平成29年度神戸大学医学部医学科 新入生歓迎合宿報告

医学科教務学生係長 山田昌宏

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

そろそろ、授業も始まり神戸大学での新しい生活に慣れ始めた頃でしょうか？

4月1日から私自身、医学科に配属になり淡路新歓合宿に初めて参加させていただき、一番感じたのは新歓委員や先輩学生の皆さんの企画力、団結力です。

新入生のみなさんにとっては、先輩学生達の企画、部活紹介で学生生活の雰囲気を肌で感じ、先輩学生や新入生のみなさんとの交流により、大学生としての今後の学生生活を思い描くことができたのではないのでしょうか。

この新歓合宿では、新入生のみなさんにとって初めての大学での講義「初年次セミナー」が行われました。大学での初めての講義はいかがでしたか？

2日目には、楠キャンパスにおいて救急講習が行われましたが、先輩方の指導を受け、医学科に入っ

たことをより実感されたのではないのでしょうか。救急講習における新入生のみなさんの真剣な姿に、医学を志す学部に入学された学生だなどと私自身実感しました。

医学科は、他学部とは違い、同じ目標を目指し努力を積み重ねていく学部だと思います。

それゆえに、同じ学年の仲間、先輩後輩と非常に強いつながりができ、友人、先輩後輩との交流、情報交換することにより大変充実した学生生活が送れると思います。

事務スタッフ一同、先生方とともにみなさんの学生生活が有意義でかけがえのものになるようサポートし、学生のみなさんと一緒に、神戸大学医学科に入学して良かった、とっていただけるよう努力していきたいと思いますので、これからどうぞよろしくお祈いします。

総合臨床教育センター 河野誠司(昭和61年卒)

神緑会の皆様におかれましては、平素より大変ご支援いただき誠に有難うございます。今年も4月1日、2日にわたり淡路島の景勝地、慶野松原荘にて神戸大学医学部医学科の新入生を集めて新歓合宿が行われました。本年は、横崎医学科長、西尾疫学分野教授(教務副委員長)、河野(教務学生委員長)と山田新教務学生係長、下田教務学生係員の4名が出席致しました。

今年は、バス出発前に、第二講堂でまず、横崎医学科長からのご挨拶がございました。横崎教授は、昨年と同じく、まず緒方洪庵の「扶氏医戒之略」を紹介されました。特に、第一条の「医の世に生活するは人の為のみ、おのれがためにあらずということ

を其業の本旨とす。安逸を思はず、名利を顧みず、唯おのれをすてて人を救はんことを希ふべし。人の生命を保全し、人の疾病を復治し、人の患苦を寛解するの外他事あるものにあらず。」を強調されておられました。引き続き、横崎先生が昨年より始まった初年次セミナーの第1章「大学はどんなところか」を講義されました。初年次セミナーは、神戸大学が大学生としての心構えをまとめた共通教材を基本に、各部局が独自の内容を織り込んで、大学生活へのオリエンテーションとして昨年から行うようになったものです。次に、前田神緑会理事長から明治期の神戸病院創立以来の神戸大学医学部の歴史について30分間のレクチャーをしていただき



横崎医学科長



河野教務学生委員長



西尾教務学生副委員長

ました。近年、前田先生や昨年まで解剖学教室を主宰された寺島先生のご尽力で神戸大学医学部の初期の興味深い歴史が明らかにされてきました。今回の前田先生のお話も、それを踏まえてたくさんのスライドを用意されていたので、若い新生生たちにとっては新奇な話の連続だったと思われます。

前田先生のお話の後、昼食を済ませ、いよいよ出発となりました。新生生諸君は、教職員やたくさんの新4回生とともにバス4台に分乗し、一路淡路島・慶野松原荘へと向かいました。空模様は出発時の曇りから、着く頃にはすっかり好天になっており、新生生の門出にふさわしいお天気となりました。

た。1時間半ほどで順調に慶野松原荘に到着しましたが、到着後はスケジュールが目白押しでした。休憩もそこそこに、まず、私から「就学上の注意」、初年次セミナー2「大学のカリキュラムについて知ろう」、「神戸大学医学部医学科の教育について」、の3つのテーマで休憩を挟みながら1時間半のセミナーを行いました。そのあとは、事務方よりもろもろの事務連絡をはさんで、午後4時頃から新4年生を中心として準備された部活動の紹介となりました。自前の車で先輩たちも続々それぞれの部の紹介のために到着し、各クラブが趣向を凝らしてPRをおこなったようです。こうして、いつものよ



心肺蘇生中の一年生



内容の説明に聞き入る一年生



指導を受ける一年生



グループ討議

うに賑やかな夜が更けていきました。

一夜明けて、海岸から遠くにかすんだ小豆島の見える気持ちのよい朝となりました。天気誘われ、朝早くの朝食前から何人かで海岸線を散策する学生たちがあちこちに見えました。2日目の行事は、朝食の後少し休憩を挟んで、西尾先生から、初年次セミナー第3章「大学のリソースを最大限に活用しよう」、第4章「大学生活で求められるルールやマナーを知ろう」の講義が行われました。西尾先生は、ご自分が新歓合宿に参加された際に来ておられた当時の脳神経外科松本教授とのエピソードを交え、学生への質問をはさみながら、コミュニケーションの大切さについてお話されました。最後は、4年生新歓委員によるレクリエーションのピンゴ大会でリラックスし、昼食を食べて一行は慶野松原荘を後にしました。

大倉山に戻った新入生は、医学部体育館に場所を移して恒例となった Basic Life Support 講習に取り組みました。本年も救急部の西山隆教授のご指導のもと、待ち構えていた約30人の新5年生有志に手ほどきをうけながら、新入生たちは心肺蘇生術の基本を学びました。この講習は、新入生が Basic Life Support を学ぶ機会であるとともに、新5年生が自分たちの主導で段取りよく Basic Life Support を新入生たちに教える格好の屋根瓦教育の場にもなっています。

こうして神戸大学医学部医学科の新入生歓迎合宿は、今年度も無事終了致しました。彼らの6年間の学業が無事成って、立派な医師の仲間入りをしてくれることを切に願います。神緑会の先生方におかれましては、若い彼らに期待をこめて見守って下さりますようお願い申し上げます。

新入生抱負

学生生活への期待

神戸大学医学部医学科1回生 森川 咲希

大学に入って3週間が経ちました。今カレンダーを見て、もう3週間!?と驚くばかりです。合格発表から今までは私が地方出身ということもありバタバタと過ぎて行きました。思えば1年前には私はまだ進路を決めていませんでした。ほんやりと医者になりたいとっていて具体的な医師像も描けないままでした。入って3週間、医学序説とか現代医療の授業などを受け、先輩が解剖などの勉強している姿を見、話を聞くにつれ自分が医師に近づいていることを実感します。まだまだ知らないことばかりだと実感します。今、少しずつ大学の教室を把握し、大学の授業に慣れてきました。ただ、その慣れを怠けにしまわないよう、受験勉強を全力でしていたほんの12ヶ月前の自分に恥じないよう、これからの6年間を過ごしていきたいです。

神戸大学医学部医学科1回生 田中 黎

入学して、3週間。頼りになる先輩方、気の合う仲間に恵まれ、勉強や部活動、ボランティア活動と忙しくはありますが、有意義な毎日を過ごしております。

振り返ると、入学試験日の朝。先輩方から温かい励ましの言葉を頂戴したことで、緊張がほぐれ、自然体で試験に臨めました。そして、入学式当日の夜。新入生みの食事会を企画。約9割の同期生が参加してくれました。食事会が、仲良くなるきっかけのひとつであったのならば、喜ばしい限りです。

1回生で学ぶ『医学序説』『細胞生物学』は、医師となる第一歩の科目です。各分野で活躍なさっている、様々な先生方の講義を受けられる贅沢な環境に感謝しております。

これからの6年間、神戸大学医学部医学科の学生として、誇りと自覚を持ち、人間的にも成長していきたいよう、ゆっくりでも丁寧に歩いていきたいです。いたらぬところも多々ありますが、先生方、先輩方、よろしく願いいたします。

神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター 開院式

神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター センター長 味木 徹夫 (昭和63年卒)

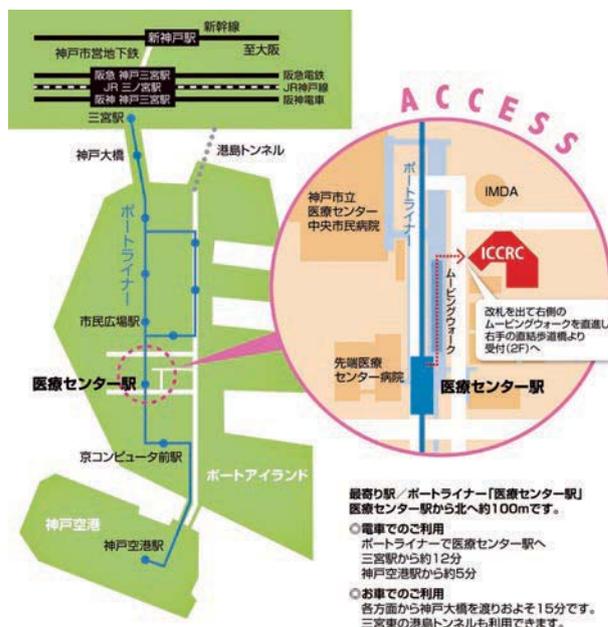
神戸大学医学部附属の新たな病院として、4月2日に神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター (International Clinical Cancer Research Center、略称 ICCRC) の開院式を開催しました。

開院式では、的崎医学部長、藤澤病院長からの式辞の後、武田学長より挨拶をいただきました。その後、井戸兵庫県知事から、神戸医療産業都市の中核となるよう期待していますとの祝辞と、「花咲くと同時に開院がん拠点 国際水準 治療研究」との祝句をいただきました。玉田神戸市副市長からも、神戸医療産業都市の中核を担うことを期待する祝辞をいただきました。続いて、文部科学省の佐々木医学教育課企画官より、がん医療を牽引する卓説した成果を期待します、との祝辞をいただきました。さらに、家次シスメックス株式会社代表取締役より、神戸メディカルクラスターへの神戸大学の参加により、産官学連携の推進、グローバルな成果発信を期待します、との祝辞がありました。

これら祝辞をいただいた後に、私から ICCRC の概要を説明させていただき、続いてテープカットが行われました。開院式に引き続いて内覧会が行われました。

当日は天候にも恵まれ、約150名の参加をいただき、無事開院式を終了することができました。関係各位にあらためて感謝を申し上げます。

本センターはポートアイランド地区にあり (図参照)、神戸大学大学院医学研究科・医学部の新たな



診療・研究・教育の拠点です。がんに対する先進的
外科医療の推進、次世代医療、新規医療機器の研究・開発を目指してまいります。今後とも本センターを宜しくお願いいたします。

※建物の外観、正面玄関は表紙右上に掲載



テープカットの準備状況



病院紹介

神戸低侵襲がん医療センター

理事長・病院長 藤井正彦（昭和57年卒）



図1 神戸低侵襲がん医療センターの外観

神戸低侵襲がん医療センター（以下 KMCC：Kobe Minimally Invasive Cancer Center）は、「小さく見つけてやさしく治す」を基本理念とし、神戸大学医学部附属病院（以下大学病院）との連携のもと、神戸市が推進するメディカルクラスターの民間医療機関第一号として平成25年4月にポートアイランドで開院致しました（図1）。本年4月で5年目を迎えることが出来ましたが、これも一重に神緑会会員の先生方のご支援の賜物と考えております。

当院の常勤診療科は、放射線科（診断・IVR）、放射線治療科、腫瘍内科、消化器内科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、歯科口腔外科の7科です。臓器別診療の流れの中で、敢えて臓器にこだわらない診療体制を構築することが出来たのは、大学病院と中央市民病院の支援のお陰です。

KMCC の役割は、多くのがん患者さんが望んで

いる「切らずに治して欲しい」という、低侵襲がん医療の流れを作ることです。特に放射線治療については、サイバーナイフ、トモセラピー、トゥルービームという3種類の最新の治療装置（図2）を備えています。この3台を使い分けることで、全身どの部位のがんに対しても、高精度放射線治療を行うことが出来ます。

サイバーナイフは、いわゆるピンポイント照射、定位放射線治療の専用装置です。脳腫瘍だけでなく、肺がんや肝臓がんのように呼吸で動く病変でも、腫瘍の動きを追いかけて正確に照射することが可能です（動体追尾機能）。

トモセラピーは、CT と治療装置がひとつになって360度方向から照射する、強度変調放射線治療 IMRT の専用装置です。頭頸部がんや前立腺がんにも最も有用で、がんの近くに放射線に弱い臓器があ



サイバーナイフ Cyberknife



トモセラピー Tomotherapy



トゥルービーム TrueBeam

図2 3種類の高精度X線治療装置

る場合でも、がんにかけて正確に照射することが可能です。

トゥルービームは、広範囲の病巣を短時間で照射出来るだけでなく、呼吸に同期して照射することや、回転しながら照射することも出来る、汎用型でかつ高機能の治療装置です。リンパ節転移を伴う肺癌や食道がん、膵臓がんにも正確に照射することが可能です。

新規の放射線治療患者数（表1）は、平成25年度は693名でしたが、26年度921名、27年度943名、28年度では1,057名の新規患者さんを治療しました。この4年間で治療を受けていただいた3,614名の患者さんの治療方法別の内訳では、定位放射線治療が1,165名、強度変調放射線治療 IMRT が1,381名、通常照射が1,068名となり、定位放射線治療と IMRT を合わせた高精度放射線治療の割合は70.4%になり、全国で最も高い割合になっています。

肝臓117名、肺108名、脊椎83名、腹部67名、頭頸部64名、骨44名、食道38名、骨盤部30名、その他94名でした。

薬物療法は、平成28年度に腫瘍内科を受診された314名中の142名が当院で薬物療法を受けられました（残りの多くは、2nd opinion でした）。部位別件



図3 放射線治療部位別件数（平成28年度）

表1 放射線治療の推移（平成25～28年度）

平成	定位	IMRT	通常	計
25年度	213	306	174	693
26年度	286	389	246	921
27年度	348	363	232	943
28年度	318	323	416	1057

定位: 定位放射線治療(高精度)
 IMRT: 強度変調放射線治療(高精度)
 通常: 通常照射

平成28年度の部位別の放射線治療患者数（図3）は、多い順に脳152名、前立腺137名、乳房123名、

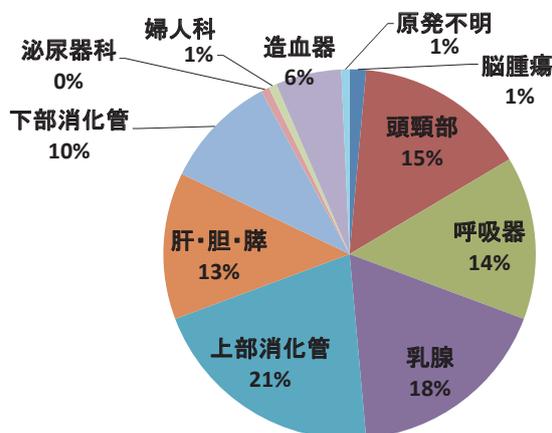


図4 薬物療法部位別件数（平成28年度）

数（図4）では、多い順で上部消化管29名、乳腺25名、頭頸部21名、呼吸器20名、肝胆膵18名、下部消化管14名など、全身の様々な部位のがんや悪性リンパ腫などに対する治療を行っています。

IVR（カテーテル治療）は、平成28年度の総件数は903件でした。検査種別件数（図5）では、抗がん剤治療や長期間の点滴に必要な中心静脈ポートなどの留置（CV port・PICC）が452件、肝臓がんや肝転移に対する肝動脈内化学塞栓療法（TACE）が160件、放射線治療のための肝マーカー留置が99件、肺マーカー留置が93件、透析シャントPTAが61件、組織生検が25件、その他13件でした。

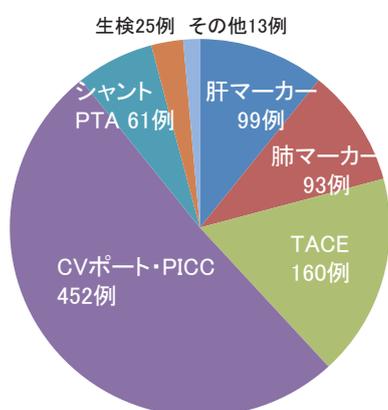


図5 IVR 検査種別件数（平成28年度）

内視鏡検査では、平成28年度の検査数は1585件でした。検査の内訳（表2）は、食道や胃・十二指腸などの上部内視鏡検査が1058件、直腸・大腸などの下部内視鏡検査が508件、胆管や膵臓などの検査ERCPが19件でした。その中で、大腸のポリープ切除や癌の粘膜切除術が併せて205件、止血術が90件、胃瘻の造設や交換が33件、胆管ドレナージ（ENBD・ERBD）が17件など、治療手技を379件行いました。

表2 内視鏡検査の内訳（平成28年度）

検査種別	患者数	治療件数
上部内視鏡検査	1058	76
下部内視鏡検査	508	279
ERCP	19	24
合計	1585	379

さらに、がん患者の生活の質 QOL を高めるため必要と判断した患者さんに対しては、がんリハビリ、緩和ケア、口腔ケアなどを受けて頂きました。

また、「小さく見つける」がんの早期発見にも力を入れており、CT や MRI、PET-CT などの画像診断装置と内視鏡検査装置を揃え、人間ドックやがん検診も実施しています。

当院は「切らずに治す」ことが特徴ですが、手術が第一選択となっている消化器系のがんや乳がんなどにも対応するため、大学病院から肝胆膵外科、食道胃腸外科、頭頸部外科、脳神経外科の外来を開設していただき、中央市民病院の乳腺外科には土曜日に外来を開設していただきました。この他、大学病院の精神神経科に非常勤で緩和ケアチームに加わっていただくなど、常勤診療科と合わせて、全身どの臓器のがんでも、安心して受診していただける体制を整えています。

さらに新しい治療として、手術を拒否された乳がん患者さんに対して、放射線治療の増感剤であるKORTUC（過酸化水素含有ヒアルロン酸）を併用した放射線治療を、平成27年度から臨床研究として実施しています。

放射線治療は集約化が進んでおり、28年3月に神戸赤十字病院が放射線治療を終了し、29年3月にはJCHO 神戸中央病院も放射線治療を終了しました。さらに、先端医療センター病院が中央市民病院に統合される際に治療装置1台が終了する予定で、当院の果たすべき役割は今後さらに大きくなっていきます。

神戸低侵襲がん医療センターは、最新の治療装置を用い、「和顔愛語」の精神で人が人を治していく病院です。小規模の病院ですが、これからもがん患者さん一人一人としっかり向き合っており、患者さんに納得していただけるがん医療を提供して参ります。

先端緩和医療学分野の紹介

神戸大学大学院 医学研究科内科系講座先端緩和医療学分野 特命教授 木澤 義之 (特別会員)

大学院内科系講座先端緩和医療学分野はがんプロフェッショナル基盤整備養成プランの一環として、がんをはじめとする生命の危機に直面する疾患を持つ患者と家族の苦痛の緩和と療養生活の質 (Quality of Life) の向上をはかる緩和ケアの診療・教育・研究体制を確立するために2012年10月に設置され、2013年6月には医学部附属病院に緩和支持治療科を開設いたしました。

緩和ケアはWHOによって以下のように定義されています。「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処 (治療・処置) を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフ (QOL) を改善するアプローチである。」それに続いて緩和ケアに関する解説が9項目記載されていますのでご紹介します。緩和ケアは、1) 痛みやその他の苦痛な症状を和らげる、2) 生命を尊重し、死を自然の過程と認める、3) 死を早めたり、引き延ばしたりしない、4) 心理的ケア、スピリチュアル・ケアを統合する、5) 死を迎えるまで患者が人生を積極的に生きてゆけるように支える、6) 家族が患者の病気や死別後の生活に適應できるように支える、7) 患者と家族のニーズを満たすためにチームアプローチを行う (死別後のカウンセリングを含む)、8) QOLを高めて、病気の過程に良い影響を与える、9) 病気の早い時期から適用することが可能であり、延命を目的とした治療、例えば化学療法や放射線治療、合併症の診断とマネジメントに必要な検査と並行して行われる。

緩和ケアの専門性をひとことで表すと、「Quality of Death (死の質)」を追求することにあります。医学は病気を治すことや延命を主眼に発展してきたと思いますが、その中で死は避けるべきものとして扱われることが多く、その過程 (dying process) の質に医学の観点から

目が向けられることはあまりありませんでした。私たちは、死を人間が一度は体験する、避けることのできないプロセスと捉え、その質を医学的な側面から向上させることを常に考えています。言い換えれば、「生命の危機に直面する疾患を持つ患者と家族」を対象とし、「多面的かつ包括的なアセスメントに基づいて患者と家族のQOLの向上を目指す」医療を実践しています。もっと平たく言えば、「Suffering (つらさ) のマネジメント」と「エンド・オブ・ライフケア (終末期ケア)」が専門であるといつてよいかもしれません。

わが国の緩和ケアはがん医療の分野を中心に発展してきており、その始まりは神戸市垂水区で開業されていた河野博臣先生が設立された死の臨床研究会にその源をたどることができます。その後、1980年代に浜松市にある聖隷三方原病院や大阪市の淀川キリスト教病院に設置されたホスピスの活動を端緒として、この30余年で急速に普及してきました。

神戸大学医学部附属病院では、全国に先駆けて2006年より緩和ケアチームの活動が開始されました。緩和ケアチームは、主治医や担当看護師と協働して、主として入院中のがん患者・ご家族の痛



後列左から
大前隆仁、坂下明大、木澤義之、飯田真之、Pinyo Shiveraachai (招へい外国人研究者)
前列左から
志田有里、加藤めぐみ、島田麻美、西島 薫、岸野 恵

みを始めとするつらい症状や気持ちのつらさを、多職種チームの力で和らげ、地域の診療所や訪問看護ステーション、緩和ケア病棟と連携し、終末期に至るまで途切れることのないケアを目指すものです。

現在でも緩和ケアチームのアクティビティーは全国の大学病院のうちトップ5に入るものですが、緩和支援診療科では、この緩和ケアチームによるコンサルテーション診療を更に充実させ、時期や場所を問わず、実施する体制を整備するよう努力しています。がんと診断された時から、切れ目のない緩和ケアが実践されるように、入院患者さんへのコンサルテーションにとどまらず、今後外来通院中の患者さん・ご家族が専門的緩和ケアを受けられるような外来コンサルテーションの体制整備や、腫瘍医の診療サポート、治療や療養に関する意思決定支援、がん診療拠点病院の機能として求められる地域コンサルテーション（地域の病院や診療所での困難事例への対処）や地域連携を通じて、附属病院と兵庫県のがん医療に貢献していきたいと考えております。また、生命の危機に直面する患者さんはがん患者さんだけではございません。慢性心不全をはじめとした心疾患、COPDをはじめとする呼吸器疾患、神経筋疾患などの治療が難しい慢性疾患に罹患した患者・家族に対する緩和ケアにも積極的に取り組んでおります。

世界的に緩和ケアは内科もしくは総合診療・家庭医療科のサブスペシャリティとして発展していますが、わが国の大学・大学病院において内科をバックグラウンドとして運営されており、大学院教育を実施している教室は、わたしの知る限り、神戸大学、筑波大学、東北大学のみであります。国際的に通用し、患者・家族を多面的にとらえ、エビデンスに基づいた診療ができる医師を養成するために、当科では内科もしくは総合診療の基本的なトレーニングを3年以上した上で、専門的な緩和ケアを2年間以上、かつ1) 緩和ケア病棟、2) 緩和ケアチーム、3) 在宅緩和ケアの3つ全てのセッティングでそれぞれ6ヶ月以上研修することを義務付けています。現在医局員が合計10名在籍しており、うち後期研修医が3名、大学院生が4名おります。超高齢化、多死社会で活躍できる、臨床能力の高い緩和医療専門医が育成できるように更に精進してまいります。

研究面では、患者・家族のQOLの向上と緩和医

療学の発展のために、1) 痛みをはじめとする各種症状の緩和方法の確立に関する研究、2) 痛みをはじめとする各種症状の評価方法の確立に関する研究、3) アドバンス・ケア・プランニングに関する研究、を実施しています。各種症状の緩和については、日本、韓国、台湾の3カ国において、多施設共同前向き観察研究を実施しており、複数の研究の立案と実施に関わっています。現在は、死亡直前に起こる死前喘鳴に対する抗コリン薬の効果に関する研究を主導しています。症状評価の研究については、2015年度に神戸大学医学部附属病院に入院中のがん患者全員に面接調査を実施し、がん患者の痛みの頻度、強さ、性状、原因などの疫学調査と、その適切な評価方法を探索するための研究を実施し、その結果を国際誌に発表しています。また、アドバンス・ケア・プランニングに関しては、2016年度より厚生労働省委託事業人生の最終段階における医療体制整備事業を受託するとともに、科学研究費補助金も獲得し、人生の最終段階における意思決定、治療の中止と差し控え、アドバンス・ケア・プランニングの実践プログラムの作成と普及、プログラムを使った介入研究の実施などを包括的に行っており、わが国における終末期の意思決定ならびにアドバンス・ケア・プランニングの臨床・研究の中心施設としての働きを担っています。

このように、神戸大学医学部附属病院緩和支援診療科はようやくよちよち歩きをはじめたばかりの小さな医局でございます。臨床・研究・教育のすべての領域で日本を代表する緩和医療の臨床研究と臨床教育の場となるよう、地道な努力をし、社会に貢献することを通して御恩をお返しできるよう精進していくつもりでございますので、ぜひ会員の先生方のご指導とお力添えをいただきたく、どうぞよろしく願いいたします。

■ 連絡先

神戸大学大学院 医学研究科 内科系講座先端緩和医療学分野

神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科

神戸市中央区楠町7-5-2

電話：078-382-6531 FAX：078-382-6534

メールアドレス：kanwa@med.kobe-u.ac.jp

（秘書：若宮、中安、石原）

木澤教授の着任が2月のため、表彰リストから漏れていました。
(編集委員会註)

医学教育・大学病院の目から見た今後の医療・地域包括ケアの展望

文部科学省 高等教育局 医学教育課 企画官
佐々木 昌 弘

平成28年8月に開催された厚生労働省関係者の講演会で発表されました。

1 社会保障と税の一体改革まで



我が国は約150年前の明治政府成立以降、それまでの漢方を中心とした医療から欧州の医学・医療を取り入れていくことになった。そして昭和20年の終戦を契機に、米国の公衆衛生思想も取り入れながら、昭和23年の医療法制定時は、医療機関の

量的な整備・確保が喫緊の課題である中で、医療の質の確保のために施設基準等を定めることが主な法律の役割であった。

その後、国民皆保険や無医大県解消（一県一医大）構想を経て、国民も医療機関にかかりやすくなったと同時に、医療機関も安定的な経営が可能となり、昭和55年頃には全国的には医師養成や医療提供体制は量的に充実の目途が立ったとされた。

そこで、昭和57年には医学部の定員抑制が閣議決定され、昭和60年には医療法改正により病床規制が導入されるにいたったところであるが、後者については説明を要する。

病床規制や昨今の地域医療構想を、病床削減による医療費抑制政策と考える人が少なからずいるが、政策目的の第一は、偏在解消である。つまり、病床規制は都市部に集中しがちで結果的に地方では充足されない傾向にあった病床を、都市部の新規参入を制限することにより地方への参入を誘導することが目的であり、地域医療構想は患者の病態を考えた際の医療機能のバランスの目安を示すことが目的である。

このように、直近30年の医療政策の中心は、偏在解消、別の言い方をすれば医療資源の適正配分であり、単なる地理的・量的な偏在だけではなく、質的な偏在も視野に入れた政策であり、例えば上記の医療機能でいえば、特定機能病院や地域医療支援病

院、療養病床といった制度の導入に既に取り組んできたところであり、広義には長期に療養が必要な患者の体制整備となる介護保険の導入も含まれる。

2 医療・介護一括法(医療介護総合確保推進法)

医療・介護一括法は平成26年に成立したが、その2年前の民主党（当時）・自民党・公明党の3党合意以来、政権交代を経ての政官あげての取り組んでいる社会保障と税の一体改革の中心となる法律であった。

社会保障と税の一体改革とは、消費税を段階的に引き上げ、それによる税増収をすべて医療、介護、年金、子育ての社会保障分野に充当するというものである。

この一括法は、医療法や介護保険だけではなく、主な法律だけで19法から構成される大規模な法改正であるが、主な点を簡潔に言えば、

(1) 医療計画の実効性を高める。

医療法改正のメインとなる事項である。なお医療計画（都道府県策定）は、現行の5年計画が、本法改正により6年計画となり、介護保険事業計画（市町村策定）や同支援計画（都道府県策定）の計画期間である3年に合わせて、中間見直しをすることとなった。もちろんこれは、医療と介護が同時に見直し・改定されることにより、総合的な確保を図ることが狙いである。

(2) 医療現場が変わる。

看護師や臨床検査技師、診療放射線技師の業務見直しにより、チーム医療の実現を目指して身分法関係の法改正を行うとともに、医師や看護師の確保の仕組み、勤務環境改善に向けた取り組みが位置付けられることとなった。更に、医療事故調査制度の導入や、医療法人に関する選択肢の拡大などにより、質の高い医療、効率的な医療を後押しすることとなった。

(3) 介護保険を持続可能なものにする。

介護保険制度もまた、有限である資源の適正配置が求められているところであり、また財政的にも安定的なものとするのが求められていることから、予防給付の見直しと地域支援事業の充実、特別養護

老人ホームの重点化、低所得者の一号保険料の軽減強化、一定以上所得者の利用者負担の見直し、補足給付の見直し（資産等の勘案）といった法改正が行われた。

3 地域包括ケア

一括法は、「効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに、地域包括ケアシステムを構築すること」を目的としている。地域包括ケアシステムとは、地域の実情に応じて（つまり全国画一ではなく）、日常生活における医療や様々なケアを、住み慣れた中学校区ほどの区域で一通り整備することである。ここでは、かかりつけ医やケアマネジャーといったキーパーソンの風通しが良い体制構築が求められる。

しかしながら、日常生活では、持病が悪化したり、別の病気で救急や夜間の受診が必要になったりすることがあるため、安心してもらうためには、救急輪番や二次医療、三次医療といった形で、医療提供体制が二重・三重に地域包括ケアシステムを支えていく必要となる。

この際、入院医療を考えてみると、入院医療としては落ち着いた患者に安心して退院してもら

い、別の入院医療を必要とする患者を受け入れるためには、地域包括ケアシステムが整っていて、地域の医師に診てもらえる体制ができていることは、患者や家族のためにも不可欠となる。

4 医療法改正の主な内容

前述のとおり、医療法改正のメインは医療計画の実効性を高めるということになり、それを可能とする政策ツールとして①病床機能報告制度＝各病院が行っている医療や体制、担おうとしている機能の共有が図れる制度、②地域医療構想＝将来の患者数の詳細な推計により、地域全体の方向性を共有できる制度、③調整会議＝地域の方向性を各病院が具体的に行動するために必要な協議を行うことができる制度、④医療介護総合確保基金＝総論賛成であるにも関わらず、個別医療機関が意思決定できない場合に誘導を図れる制度、⑤知事の権限＝地域全体が意思決定できない場合、行政機関による誘導が可能となる制度が制定された。

これら5つの制度が、他人事ではなく自らの運営・経営ツールとして使いこなしていただくよう、切に願うし、先生方には県庁や保健所もまたツールとして使いこなしていただきたい。

医師会会員先生方の安心をお手伝いします

- 保険料の安くなる生命保険団体扱
- 掛金の安い第1グループ保険(最高6000万円加入可)
- 従業員も加入できる第2グループ保険(最高1500万円加入可)
- あいおいニッセイ同和損保代理店
- 兵庫県医師会関連団体費用引去制度(先生の手数料負担はなし)

★詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://www.hyogo-ishikyo.or.jp>

昭和30年創立

 兵庫県医師協同組合

〒651-0086

神戸市中央区磯上通3丁目2番17号

兵医信本店ビル5階

TEL:078-271-1010

FAX:078-271-1039

わが母校誕生のころ ―本学の神話時代― (1)

故 中 村 和 成 (医大1期 昭和26年卒)

この資料は県立兵庫医学専門学校の初期の学内の状況、空襲、敗戦、医学専門学校の大学への昇格などについて、詳細な日記をもとに小冊子にまとめた「わが母校誕生のこと一本学の神話時代」(中村和成教授)(元本学解剖学第一助教授、前島根医科大学教授)からの抜粋です。

その時代のことが手をとるように書かれています。

神戸大学医学部50年史に一部記載されていましたが、70数年前の状況をご理解ください。後半部分は次号に掲載します。

学生募集



私が兵庫県立医学専門学校というものを知ったのは昭和19年1月のある日の朝日新聞紙上でありました。当時は戦争も次第に敗戦の色が濃くなり、中学を卒業して上級学校に入れずに所謂浪人とやらでボヤボヤしていると直ぐ徴兵や徴用で引っぱられ、又

よし上級学校へ入った処でそれが文科系なればどしどし兵隊にとられる物騒な世の中でしたので、よほど根性のあるもの以外はこぞって理科系の大学又は高等専門学校を受験したものでした。

この様な当時のことですから一人で4校も5校も受験する者がザラにあったことは申すまでもありません。私も中学の同級のものと同様に神戸に医専が出来たそうだから、まあ規則書でももらって来ようかということになったのです。さて調べてみると未だ学校の校舎というものが何処にもありません。よくよく新聞の説明を読むとどうも県庁で事務を扱っているらしいと言うので学校の帰りに県庁へ行ってみました。先ず驚いたことに受附の人が警察部へ行けということです。あとでよくわかったのですが、当時は現在のように衛生部が独立しておらず、警察部の1課として衛生課というものがあつた訳なのです。何はともあれ、衛生課へ行った処、確かに机1つだけある兵庫県立医学専門学校仮事務所というものがあつた、兎も角、規則書ももらってその日は帰りました。さてまあ近所だし、若し高等学校(旧制)に落ちた

ときに兵隊や徴用に行くよりましだろう位の気持ちで受験しようかということにしたのですが、受験手続をした友達が受験場所は私の在学している中学(神戸一中)だということです。どうも何だかテレくさいというのでボヤボヤしていましたが、受験者が思いのほか増えてとうとう神戸一中だけでは足らずに神戸二中も使うことになったという話です。医者にはなりたくないが死ぬよりはましだろう位に考えてただ何となく昭和19年2月18日その仮事務所におもむいて受験手続。受験料は10円、受験番号は1914、試験場所は県立第二神戸中学校。もらった受験者心得に空襲警報発令時(訓練の場合を除く)の心得として、試験開始時間前又は試験中空襲警報ありたるときは当日の試験を中止し翌日より試験を開始す云々、とありました。受験地は神戸市と東京都と福岡市で受験者数は5,324人、募集人員は160名(実際に入学したのは145人)で、37人に一人の割だった訳です。

入学試験

第1次試験は昭和19年3月10日午前9時半より2日間にわたって行われました。試験科目は10日が数学と国史、翌11日が理科物象と国語となっていました。入試に外国語がなかったのは当時としては別に珍しいことではなく、むしろ普通だったのです。英語は敵国語であるといふとんでもない戦争指導者の考えからで、今にして思えば学問の世界によくまあそんなロジックが通用したもんだと慨嘆に耐えられません。入試問題の出題者は姫路高校(旧制)の教授連、印刷は神戸刑務所で行われたとの噂でした。私の受験場はさきに述べましたように神戸二中校舎、数学は5問中確実に出来たと思ったのは2問しかありま

せんでした。よほどどうなる自信がなかったと見えて3月11日の日記には“滑ること自信あり、遊び半分で試験を受く”と書いています。実は第2日目は朝から春には珍しいどしゃ降りで見ぞれ迄混じえその上昨日の出来がよくなかったものですから全く気が進まず受けるのを止そうと思ったのですが、親父に叱られて止むなく作ってもらった弁当をぶら下げて家を出ました。受験場に入って驚いたことは欠席者が実に多く歯が抜けたようです。自分も恐らくその一人だったのでしょうから苦笑させられました。

さきに申しました入学率37人に一人とはこの第2日の出席者からの比率で第1日目の受験者との比は50人に一人位だったと思います。第1次試験の合格発表は受験案内によると“3月20日本人に通知及び新聞掲載”となっていました。ところが、実際は3月22日県庁の衛生課で発表がありました。翌23日には兵庫県内政部衛生課と印刷された横に兵庫県医学専門学校と学校の名称の誤ったそまつなゴム印のある封筒ではありましたが学校から直接通知がありました。数学の出来がまことに悪かったものですから合格通知を受けとった時には昨日合格したことは知ってはいらぬものややはり何とも嬉しいかぎりでした。

第2次試験は生徒募集の規則では3月27・8日の両日となっていました。合格通知では4月2・3の両日に変更になっていました。試験場は元神戸市立第二高等女学校校舎即ち現在の大学の基礎学舎で行われました。

4月2日は身体検査のみでしたが欠席者の多いのに亦々驚きました。あちこちとかけて受験しているものが多いため1ヵ所が通る者は他所も大抵通るためなのでしょう。第2次試験の通知を受けた者は募集人員の約2倍、300名程度だったようですがおかげで第1次試験をパスした者はよほどの欠点がない限り入学出来るようになりました。身体検査は現在の4階生理・薬理実習室で行われ、翌3日の口答試験は現在の4階第1生理研究室や金子先生の部屋辺りで行われました。口答試験には松島元教授や赤松元講師がおられたように記憶しています。4月5日現在の楠中学の北側の道路に面したレンガ塀に合格者名の書いた紙が貼り付けられました。私は当日はその塀の中も兵庫医専の構内であると信じていました。

開校式

翌4月6日に合格通知が自宅へ郵送されて来ました。入学心得には“…二、学生ハ総テ校内寄宿舎ニ寄宿セシムルニ付キ時局柄入手困難ナル蒲団、洗面器具、食器類、其ノ他身ノ廻品等を予メ発送シ置クベシ、三、米其ノ他ノ諸物資ノ配給申請ニ必要アルニ付転出証明ニ関スル諸手続を完了ノ上入学式前日午後一時迄ニ携行スベシ、四、本校正規ノ学生服未ダ準備ニ到ラザルニ付入学式当日ノ服装ハ清潔ナル出身学校ノ制服又ハ之ニ準ズル服装ニ巻脚絆ヲ着用スベシ…云々”とあり、学生は総て通学を許さぬたてまえとなっています。学校から1時間もかからぬ処に住んでいて食べるものもろくない時に寮生活とは殺生など早速学校当局へ問い合わせました。学校の方も学生全員を収容する寄宿舎の設備は目下なく当分は通学で結構ですとのことやれやれと思いました。寄宿舎に本当に入った人は30名余りだったと記憶しています。場所は現在の基礎学舎の4階東側の辺りでした。当時の木製のベットの今でも基礎の教室では方々で使われています。

入学心得に従い、4月15日入学誓書に戸籍謄本及び入学金10円也を添えて入学手続を終りました。同じ日の日記に“パイロット万年筆を阪急にて求む、税共で6円12銭”と書いています。

入学手続のとき“4月19日午後1時学校へ入学者全員集合セラレタシ”との事でしたので当日行ってみますと何とこの間迄神戸一中で国漢の教師をしていた真川伊佐雄氏が入学についての細々とした注意をしたのには驚きました。先生何時の間にやら生徒主事兼教授になっていたのです。この先生がこれから色々話題を呈供する主であるとは知るよしもありませんでした。

入学心得にある本校正規の学生服は戦争が次第に激しくなった為とうとう陽の目を見ずに終わりましたが、制帽の方は当日帽子屋が出張して角帽と戦闘帽を売りつけました。角帽は儀式のとき、戦闘帽は平素にかぶれとの事です。徽章は“医”の字に“兵”の字を重ねたものでどう見てもお世辞にも美術的なものではありませんでした。

愈々4月20日午前9時過ぎより開校式兼入学式が現在の基礎学舎4階の大講堂で行われました。初代校長は県立神戸病院々長だった小川瑳五郎先生、出席した生徒数は143名、式次第を書いたメモがありますので転記しますと、

兵庫県立医学専門学校開校式次第

神事次第

- 一、職員生徒整列 午前9時40分
- 一、来賓一同着席 午前9時50分（振鈴）
- 一、齊主齊員着席 午前10時
- 一、修祓 一同磬折
- 一、降神之儀 警蹕 一同磬折
- 一、献饌
- 一、齊主祝訓奏上 一同磬折
- 一、清祓
- 一、玉串奉奠
- 一、撤饌
- 一、昇神之儀 警蹕 一同磬折
- 一、齊主齊員退下

式典次第

- 一、開式の辞
- 一、宮城遙拝
- 一、国家斉唱
- 一、祈願祈念
- 一、勅語奉読 知事
- 一、知事式辞
- 一、文部大臣告辞
- 一、来賓祝辞
- 一、学校長挨拶
- 一、生徒総代の辞
- 一、閉式の辞

直 会

- 一、祝宴

となっています。生徒総代の辞は赤沢淳平君が述べたと記憶しています。

開校当初の学校の規模の説明にはちょうど手もとに本学最古の学校概覧がありますのでそれをそのまま転記することにいたします。

兵庫県立医学専門学校概覧

当校ハ昭和十九年一月十八日設立認可、四月開設以来二箇月ノ専門教育初程ニ過ギザルモ附属医院タル元県立病院ハ明治二年創始以来数十年ノ歴史ヲ有シ漸次穩健ナル発達ヲ遂ゲ殊ニ昭和六年現本館ノ新築成ルニ及ビ内容ノ充実ト研究施設ノ整備トヲ加ヘ之ニ依リ学位受領者六十名ヲ超エ診療ノ実績ト共ニ内外ノ信望加ハリ全国屈指ノ病院トナレリ、恰モ時局ノ要望ト共ニ年来ノ声タル医育機関設置ノ輿論熾ントナリ県ハ市当局並ニ財界諸賢ノ絶大ナル支援ヲ得、本年一月臨時県会ノ議ヲ経テ設立決定、直ニ認可ヲ得、四月ヨリ授業開始ノ運ビトナリ神戸市提供

ノ本校舎ニ依リ目下改造設備ノ充実ヲ急ギツ、四月入学式以来一回ノ欠課ナク、授業ハ勿論訓練鍛練ニ勤ミ、教授講師ハ当局ノ諒解ヲ得、實際訓練上毫モ支障ヲ見ザルモ正式発令ニ接セザル者一部アレバ茲ニ担任課目ト人名ノ列記ニ止メ順序席次不同ナルモ概要ノ一端ヲ示シテ参考ニ供ス

- 一、名 称 兵庫県立医学専門学校
- 一、所在地 神戸市湊東区楠町六丁目
- 一、設立認可 昭和十九年一月十八日
- 一、建物坪数 学校 鉄筋四階建 延二、一八七坪
附属医院 鉄筋及木造建 延七、九一三坪
- 一、学 年 四学年
- 一、生 徒 定員 六四〇人 一学年 一六〇人
- 一、本年度志願者 五三二四人
- 一、入学者 一四五人

一、職 員

学校長 小川瑛五郎
教 授

内科血行器学物理療法学	大高 誠
修練訓育軍陣医学教務課長	分玉 巽
産科婦人科学	村上 清
内科呼吸科学臨床病理学	中院 孝円
内科新陳代謝学臨床医化学	竹田 正次
解剖学生理学生物学	勝 義孝
細菌微生物学	田部井 和
道義人文生徒課長	真川伊佐雄
生徒主事兼教授	
外科学	石川 善衛
内科胃腸科学栄養学	寺水 重樹

講 師

国民衛生医事法制国民体力	赤松秋太郎
組織学解剖学	島田吉三郎
医化学	松島 周蔵
独逸語学	橋寺 太郎
解剖学	武田 創
物象数学生理学	岡田 徳一
修練	高田 八郎
薬理学	中沢与四郎
組織学	藤田 武夫
衛生学	六鹿 鶴雄
病理学	福谷 温
航空医学	高田 蒔
小児科学	鈴木 靖
耳鼻咽喉科学	中村良太郎
外科学	藤田 登
歯科口腔学	前田 次郎
小児科学修練	船木 宗幸

助教授	
解剖学	片岡 登
生理学	大木 佐
医科学	楨村 博介
助手	
医化学	村松すみ子
配属将校	
陸軍大佐	徳岡政之介
武道嘱託	
剣道達士六段	崎本 武士
柔道教士六段	時実 克巳
事務長(兼)	松島 民藏
書記兼助教授	近藤 保
書記	西垣 藤一
同	丹原 彰雄

とあり、つぎに生徒氏名として赤沢淳平君以下145名の名前、本籍、出身校が載っています。1学年は4組にわかれていましたが、時局に迎合したといのでしょうか、第1学年とは呼ばずに第1中隊と称え、1組から4組までを第1小隊、第2小隊、第3小隊、第4小隊と呼んでいました。従ってこの学校概覧に第1中隊、第1小隊…というぐあいに印刷されています。また副校長格である分玉巽先生は陸軍々医少将でしたし、少なくとも表向きは本学はミリタリズムの厚い衣を着て発足したのでした。

講義開始

入学式も無事終り、愈々講義が順調に開始されましたと書きたいところなのですが、イの一番の講義はそう簡単には始まりませんでした。と申しますのは入学式を4月20日迄遅らせても未だ講堂もろくに出来ておらず(とうとう終戦迄完全なものが出来ずじまいでしたが)講義の準備も恐らくなかなか間に合わなかったのだと思います。然し入学式が終わったのですから翌日からは学生一同は規則通り8時半には登校致しました。こういう訳で5月の始め頃迄は戦時下でありそうやたらと休講にする訳にも行かず、学校当局は何とか時間の穴埋めをせねばならなかったのだと思います。

4月21日(金)は8時半校庭-現在の基礎学舎の芝生の植っている中庭-当時はアスファルトが敷いてありました-に集合、直ちに湊川神社に正式参拝を行いました。正式参拝とは学生は、いや当時は専門学校でしたから正しくは生徒と呼ぶのでしょうかが制帽のうち正式の方即ち角帽を冠り、教官は国民服

に身を浄め、神主さんが出て来てお祓いをし、玉串を代表が奉奠したように憶えています。そのときは副校長格の分玉巽先生(故)-当時は分玉閣下と呼ばれるようにいられていました-は陸軍々医少将でしたので金ピカ服にやたらと勲章や従軍徽章やらをつけて来られていました。神社参拝の後、湊川神社の歴史を官司から聞いたりなどしましても、学校から目と鼻のさきにある楠公さん迄行ってそう時間が潰せるものでもありません、11時には学校へ一同戻り昼食となりました。午後は1時から附属病院見学ということで唯やたらと病院の廊下を歩かされた後、今日はこれでおしまいということに相りました。

翌4月22日(土)は昨日より30分遅くなって9時始まり。学校へ行ってみると、先ず中学校なみに朝礼で、生徒主事の真川伊佐雄氏の号令で始まりました。それが済むと今日は海洋气象台へ見学に行くとの事です。松島周蔵教授引率のもとに生徒一同ぞろぞろと中山手の高台迄歩いて行きました。気象学に関する予備知識がない上に气象台に別に興味がある訳でなく、一同气象台のドームのある屋上へ上ってワイワイガヤガヤ日向ぼっこを決めこんでいましたところ松島先生に一喝くらってしまいました。これが本学での一番最初に教官が学生を叱った記録だと思います。一同叱られたせいでもないと思いますが土曜だというのに午後は学校へ帰って教室の掃除をさせられ、逃げて帰る程スレでもおらず、唯ブウブウ言い乍ら、兎も角、箒やバケツを動かしました。

翌月曜日4月24日からはボツボツ講義らしいものが始り出しました。

その講義内容は学則によりますと次のようになっています。

1学年	1学期	2学期	3学期
修身	1	1	1
外国語	4	3	3
数学及物理学	4	-	-
生物学	2	1	-
解剖学	10	8	5
組織学	4	4	3
生理学	2	8	8
細菌学	2	3	4
		(第2学年に続く)	
化学及医化学	6	6	6
病理学	-	-	4
保健医学及衛生行政	-	1	1

(数字は毎週授業時数を示す)

以下次号につづく。

姫路工大「医学進学課程」の思い出

吉田 浩 (昭和33年卒)

私が姫路工大の医進課程に入学したのは昭和27年で、戦後の学制動乱がひとまず落ち着きをとり戻しはじめた頃でした。旧制神戸医大は27年に新制大学に、姫路工大は24年に高専から新制大学になっていました。文部省は24年に医学部の入学資格を大学2年修了者で科目および単位が規定された要件を満たすものとして、医学部進学課程の名称で2年間の大学の設置を認めました。神戸医大は姫路工大にこの大学予科教育を委嘱したわけです。

この年に同期で姫路工大の医進課程に入学したのは20名で、詰襟の学生服に角帽姿、校舎は明治期に師範学校として建てられた木造2階建て、板壁に窓は上下開きで廊下は油引きの格調のある建物でした。教科は英語、国文学などの一部を除くと、独語、哲学、倫理学、心理学、法学、経済学、社会学、統計学などの人文、社会科学はみな新鮮で、生物、物理、化学などの自然科学は実験内容が充実しており、旧制高校の一般教養を彷彿とさせるものでした。中でも2年次の夏に赤穂市坂越で、約1週間泊まり込みで湾内の生島を中心に行った自然研究は、医学部卒業後の研究生活のスタートにふさわしい貴重な体験でした。

医進課程の一般教養には体育もありました。私は生来運動神経が鈍いのです。保健衛生の座学には出席しましたが、体育実技の内容は殆どがバレーボールなど。私のようなレシーブをうまく出来ない者には苦痛の時間でした。大学は学問の場ではないのかと屁理屈も言いたくなり、体育実技の時間はよくさぼりました。それが後に難題を提起するとは夢想だにしておりませんでした。それは2年間の医進課程の終わりに近い1月末頃でした。体育教官室に呼び出されて出席時間の不足と「体育実技は必修科目だから、この単位がとれないと留年になる」と宣告されました。(現在は選択科目になっているようですが、当時は必修でした)。私がかつにも必修なのを忘れていた自業自得ですが、これで留年になるのはあまりにも残酷な仕打ちです。一息つぐ時間をおいてから、体育主任教授が「2月下旬に神鍋でスキー合

宿がある。それに1日出席したら必修の2単位を認めよう」。窮していたところに救いの道がひらけました。親友に相談すると彼もスキーをはじめてでしたが快く神鍋行きを承諾してくれて、2人で重い足取りで合宿に参加。ところが半日で何とか滑れるようになるまで俄然スキーが面白くなり、医学部では信州のスキー場へも遠出するまでになりました。今ではスキー合宿のチャンスを与えて下さった体育主任教授に感謝です。

その頃、医学部の入学資格は高校を卒業すると医科大学の予科を受験して入学し、2年後に新制大学の医学部を受験します。実際は大学予科の入試によって既に学生は選抜されていますので、医学部へは無条件か内部試験で合格させる6年連続教育が多く、医科大学で行われていました。一方、旧帝大などでは理学部に医学部受験コースである2年制の大学を設けました。しかしこの制度では医学部受験に失敗したいわゆる医学部浪人が理学部内にたまり、問題になりました。そこで文部省は医学部進学課程の名称で2年間の大学の設置を認め、この改正の結果進学課程修了者は自動的に4年制専門課程へ進級できることになりました。30年頃だったでしょうか。

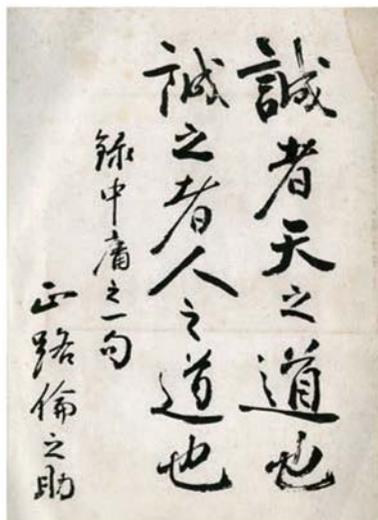
私が姫路工大医進課程を修了した29年は、神戸医大に無条件では入学出来ませんでした。神戸医大の入学試験があり、受験生は試験当日基礎学舎の中庭に集合し、正路学長が兵庫農大、姫路工大の医進課程修了者であっても特別扱いはせず、他大学で理系の教養課程を修了した入学希望者と同等の扱いをすると説明。京大、阪大、神大、大阪府大などから約20名が同期生に加わりました。その一方で姫路工大医進課程の20名の中、2名が不許可になりました。

教育制度にベストはありません。新たな問題が生じる度に手直しを加えた試行錯誤の末の産物です。私が体験した姫路工大医進課程でも矛盾を感じることはありましたが、青春の多感な時期に相応しいリベラルアーツ教育とゆとりの時間で人間性を涵養され、無二の親友にも巡り会えた有意義な2年間でした。

(編集の都合で掲載が遅くなりました:編集委員会註)

昭和24年医学専門学校卒業生アルバム

名簿の発行時期も近づいてきましたが、NHK からの問い合わせで医学分館図書館に昭和24年卒のアルバムが保管されていることが判明しました。近く取材にみえるようです。ただ、25年卒のアルバムと併せて神緑会が保管してしていました。神緑会なり、図書館保管の経緯は解りませんが、24年卒のアルバムでは、卒業生が作成し、正路学長に贈ったものであることが判明しました。



1. 正路学長が卒業生に贈った書



2. 正路医科大学学長



3. 小川医学専門学校長



4. 卒業生記念写真

なお、26年卒のアルバムが神緑会にはありませんので、寄贈いただければ、神緑会で保管します。
巻末の「医学専門学校、県立医大から神戸大学医学部へ— 原稿募集」をご覧ください。

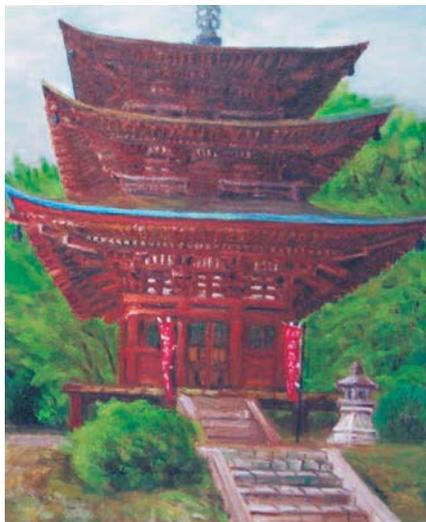
神緑会美術展開催のご案内

神緑会事務局

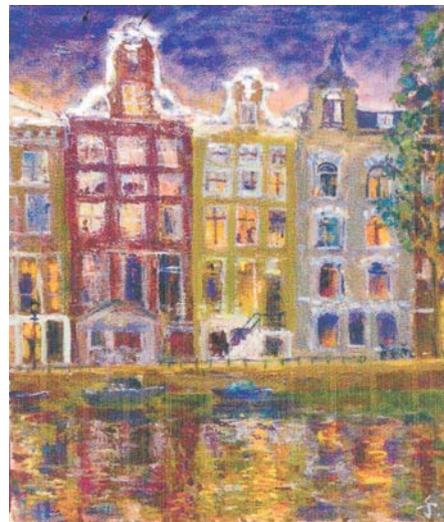
かねてから、37年卒藤谷先生から、美術展の開催についての提案がありました。その一部で「平成18年から22年までに展覧会に出品された先生の中で神戸大関係の先生を調べた結果、19名の先生がおられました」と記されていました。「セッティングは大変と存じますが、一度始めると名のり出られる方が出てこれるのではないのでしょうか」とも書かれていました。

前田会長が藤谷先生や宮地先生の出展される展覧会を見

学し、神緑会としての開催を考えてきましたので、平成29年10月28日ホームカミングデイの開催と併せて、医学部内での開催とします。準備をこれから始めますので具体的な案や運営はこれからですが、藤谷委員長の下で盛大に開催されることを期待します。



石峰寺三重塔 (F15 油彩)
藤谷哲造 (昭和37年卒)



運河のある街
2014年夏、アムステルダムにて
宮地千尋 (昭和54年卒)

先生の良きパートナーでありたいー
私たちはそのために頑張ります。

ジェネリック医薬品

ワクチン・衛生材料

医療機器・調剤機器

カード事業 (JAPAN DOCTOR'S CARD)

生命保険・損害保険

医業経営コンサルティング

リネン・医療用寝具リース

医療用食品・食器・厨房機器

神戸医師協同組合

本部 神戸市中央区神若通3丁目2番15号
TEL 078(241) 8995番 FAX 078(231) 0910

ホームページアドレス <http://www.kobe-ishikyo.or.jp>

神戸事業所 TEL 078(241)8991番(代) FAX 078(242)8251
尼崎事業所 TEL 06(6438)2561番(代) FAX 06(6438)2339
明石事業所 TEL 078(936)3535番(代) FAX 078(936)3349
姫路事業所 TEL 079(239)5725番(代) FAX 079(239)2513
西神事業所 TEL 078(795)6612番(代) FAX 078(795)7084

支部だより

第3回 山陰支部総会に出席して

神緑会会長 前田 盛 (昭和46年卒)

支部活動と本部（理事会等）とが連結しての自由な活動が行えることになったのは、平成23年度からです。それまでの公益法人とは名ばかりで特に免税等の特典を有しなかった。神緑会にとっては格式としての意義だけで窮屈な運営を強いられていた。

一般社団法人となり、定款にも支部名を記入し、本支部活動の一層の連携を強める契機として山陰支部が位置づけられています。平成29年4月15日（土）の総会に出席したのは、新ルールによる名誉会員の承認3名のうち2名が同支部であり、杉本島根大学医学部内科学教授、武中鳥取大学医学部泌尿器科教授が該当しました。同日、ご出席いただき、直接認証状をお渡ししました。神戸大学では、准教授であり、かつ長い期間神戸大学卒者と同様に教育、研究、診療にご貢献されました。

出席者で岡空会員の診療所は、100年の歴史をもつ事のまとめの出版物をいただきました。大変興味を持ちました。

島根大学医学部には、木下消化器内科教授をはじめ、放射線治療学の猪股教授、放射線講座の北垣教授、救急医療学の仁科教授と多分神戸大を除くと最多の神緑会員教授がおられます。獨協医大でも最

大7名の神緑会員教授がおられましたが…。

評判の良い、あるいは力のある教授がおられると必然的に次なる神緑会員教授が誕生しやすいので、皆様のご協力をお願いします。



写真1 名誉会員賞状授与 杉本利嗣教授



写真2 名誉会員賞状授与 武中 篤教授



集合写真

後列
杉木山三竹
本下内浦中

前列
勝岡前富
呂空田田

“神戸大学医学部関係者の皆様”へ

FELICE で

フェリーチェ

理想の結婚

フェリーチェは、メディカル人材企業との提携を通じて、
医療の第一線でご活躍の医師・歯科医師を中心にお迎えし、
理想の結婚をプロデュースすることを目的として
創設された会員制クラブです。

万全の個人情報管理と医療業界を熟知した専任コーディネーター
だからできる「洗練された出逢い」をあなたに。

<成婚事例>

男性	女性
36歳 神戸大学 医師	33歳 関西医科大学 医師
31歳 大阪市立大学 医師	28歳 京都府立医科大学 医師
33歳 大阪医科大学 医師	27歳 神戸薬科大学 薬剤師
34歳 慶應義塾大学 医師	26歳 神戸女学院大学 英語教師
38歳 京都府立医科大学 医師	29歳 近畿大学 会社員
37歳 愛知医科大学 医師	31歳 同志社大学 客室乗務員
41歳 関西医科大学 医師	33歳 京都女子短期大学 会社員
38歳 大阪大学 医師	32歳 兵庫医科大学 医師
37歳 近畿大学 医師	29歳 大阪医科大学 医師

神戸大学医学部関係者様 限定キャンペーン

詳しくはお問合せください。



フェリーチェは、個人情報保護を第一に、あえてオーソドックスなスタイルを守り、
医療業界を熟知した専任コーディネーターがご本人様のお人柄・ご要望をしっかりと把握し、
最適なお相手をご紹介します。

●入会資格

- ◇男性25歳～50歳 医師、歯科医師
 - ◇女性20歳～37歳 医師または短大・専門学校卒以上
- 男女ともに結婚をお考えの独身者の方

※上記条件を原則として、そのほか本クラブの独自の入会審査基準がございます。

詳しくはフリーダイヤル、またはホームページにて、フェリーチェのすべてがわかる資料をご請求ください。

☎ 0120-683-156 www.felice.cc

フェリーチェ

検索

※「フェリーチェ」で検索してください。

受付時間 / 10:00～20:00 水曜日休日

フェリーチェはおかげさまで **創立15周年** を迎えました。そして、約4000社ある事業者の中で「紹介内容的確さ」「スタッフのサポート体制」など
11項目からなる「顧客満足度の高い会社」 **2年連続 総合1位** (オリコン株式会社調べ) との評価をいただきました。
今後とも「真の顧客サービス」を目指し、皆さまのご結婚を全力でサポートさせていただきます。

無料 親御様向け説明会のご案内

- 開催日時：2017年6月13日(火)、15日(木)、16日(金)、20日(火)、22日(木)、23日(金)、27日(火)、29日(木)、30日(金)、7月4日(火)、11日(火)、13日(木)、14日(金)、20日(木)、21日(金)、25日(火)、27日(木)、28日(金) 各日14:00～
※他の日程での設定もございますので詳細はお問い合わせください。
- 会場：芦屋ラウンジ・銀座ラウンジ・横浜ラウンジ
- 専用ダイヤル：芦屋 0797-25-1076 / 銀座 03-6228-5720 / 横浜 045-264-4593 (10:00～20:00、水曜日休日)

毎月1300件以上のお見合いをコーディネートしているプロフェッショナルがどんなご相談にもお応えします。

プライムマリッジ株式会社
www.prime-marriage.com



結婚相手紹介サービス業認証
機構より適正なサービス事業者
として認証付与を受けています。



JMIC
一般社団法人
日本結婚相手紹介サービス協議会

個人情報管理・プライバシー保護には
細心の注意を払っています。

THE ONLY[®]

西宮北口、過去最大[※]プロジェクト

西宮北口 次代の象徴 完成披露

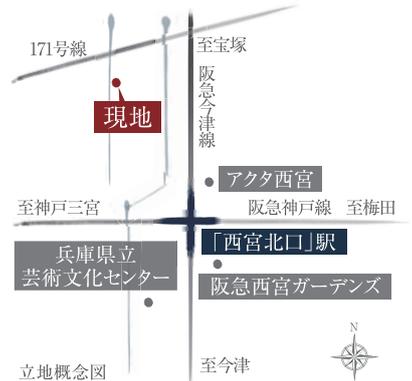
□外観(平成29年3月撮影)

棟内モデルルーム公開中「プレミスト西宮北口ザ・レジデンス」

※1.※2.THE ONLY、過去最大とは民間による分譲マンションで、阪急神戸線・今津線「西宮北口」駅最寄りかつ、阪急神戸線「北側」において、総戸数・敷地面積が過去最大であることを指しています。(平成27年9月1日現在 MRC調べ)※掲載の写真は平成29年3月に撮影したものに一部CG処理を施しております。※棟内モデルルームは、今回販売対象外住戸となります。※車は販売価格に含まれておりません。

■物件概要 ●物件名称/プレミスト西宮北口ザ・レジデンス ●所在地(地番)/兵庫県西宮市丸橋町92番1 ●交通/阪急電鉄神戸線・今津線「西宮北口」駅徒歩10分 ●用途地域/第1種中高層住居専用地域 ●敷地面積/6,193.48㎡(建築確認申請対象) ●建築面積/3,007.57㎡ ●延床面積/13,793.48㎡ ●建築確認番号/第ERI15036870号(平成27年9月25日付) ●構造及び階数/鉄筋コンクリート造地上7階建 ●総戸数/149戸(別途 ゲストルーム、オーナーズルーム(集会室)、管理事務室各1戸) ●駐車場空台数/42台(別途来客用平面駐車場2台、サービス車輛用平面駐車場1台) ●月額使用料:6,000円~17,000円 ●バイク置場空台数/10台(バイク置場5台 ミニバイク置場5台):月額使用料1,000円~2,000円 ●駐輪場空台数/160台(ラック式160台) ●月額使用料:100円~200円 ●建物完成年月/平成29年3月完成済 ●入居/即入居可 ●事業主・売主/大和ハウス工業株式会社 本店マンション事業部 ●販売代理/日本住宅流通株式会社買取再販事業部/〒530-0001大阪市北区梅田1丁目1番3-800号(大阪駅前第3ビル8階)、TEL.06-7670-2647、宅地建物取引業者免許番号/国土交通大臣(11)第2608号、(一社)不動産流通経営協会会員、(公社)全日本不動産協会会員、(公社)日本不動産鑑定士協会連合会加盟、(公財)日本賃貸住宅管理協会会員 ●分譲後の権利形態/敷地は専有面積持分比率による所有権の共有、建物専有部分は区分所有、建物共用部分は専有面積持分比率による所有権の共有 ●管理形態/入居後、区分所有者全員により管理組合を結成し、管理組合と管理会社との間で管理委託契約を締結していただきます。 ●管理会社/大和ライフネクスト株式会社 ●施工/株式会社長谷工コーポレーション ●設計・監理/株式会社長谷工コーポレーション大阪エンジニアリング事業部 ●基本計画・デザイン総合監修/株式会社日建ハウジングシステム

■第1期~第3期先着順申込受付概要 ●販売戸数/30戸 ●販売価格(税込)/4,910万円(1戸)~8,590万円(1戸) ●最多販売価格帯/5,800万円台(4戸) ●間取り/2LDK・3LDK・4LDK ●住居専有面積/65.05㎡~105.10㎡※表示面積は壁芯面積ですので、登記面積はこれよりも少なくなります。 ●バルコニー面積/9.40㎡~33.50㎡ ●サービスバルコニー面積/1.59㎡~4.85㎡ ●ポーチ面積/2.75㎡~11.18㎡ ●アルコーブ面積/2.27㎡~5.66㎡ ●ルーフトバルコニー面積/24.73㎡~40.57㎡ ●月額使用料:1,100円~1,700円 ●専用庭面積/8.65㎡~9.55㎡ ●月額使用料:400円 ●テラス面積/11.40㎡~12.25㎡ ●管理費(月額)/8,100円~13,100円 ●修繕積立金(月額)/7,600円~12,300円 ●管理準備金(一括)/16,200円~26,200円 ●修繕積立基金(一括)/532,000円~861,000円※209号室、210号室は平成29年3月25日より現地販売センターとして使用しております。 ●取引条件有効期限/平成29年6月30日 ●広告作成年月日/平成29年4月24日 ●第1期~第3期先着順申込受付場所/プレミスト西宮北口ザ・レジデンス現地販売センター ●申込の際にお持ちいただくもの/印鑑、ご本人様確認資料(運転免許証等)、直近1年分の所得を証明するもの ※詳しくは係員までお問合せください。 ※先着順につきご希望住戸が完約済の場合がございます。あらかじめご了承ください。



※立地概念図は、立地状況を説明するためのものです。実際とは異なる場合があります。

お問い合わせ・資料請求は
「プレミスト西宮北口ザ・レジデンス」
現地販売センター

0120-149-921 **ダイワ 西宮北口 検索**

営業時間/10:00am~6:00pm(水曜定休※祝日は営業しております。)※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

〈事業主・売主〉

大和ハウス工業株式会社 本店マンション事業部

大阪市北区梅田3丁目3番5号 〒530-8241

Tel 06-6342-0991 Fax 06-6342-0907

建設業許可番号:国土交通大臣許可(特-27-28)第5279号 宅地建物取引業者免許番号:国土交通大臣(14)第245号

(一社)大阪府宅地建物取引業協会会員/(一社)不動産協会会員/(公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟

www.daiwahouse.co.jp



75・150周年募金への新たな展開

1年半に及ぶ活動でも予定金額ははるかかなたの様相です。ただ、**法人では寄付が損金扱いされることが判明しました**。1人法人等が認められた事は武見体制下の大きな成果だったと思います。これまでの発想は勤務医の考え方で、免税の範囲が狭いものでした。母校の発展に向けた記念事業へのご協力をお願いします。

50周年記念事業では、会員の約50%以上の協力で神緑会館が建設されました。

寄付者名と金額の公表に向けて、検討を始めました。全国の医科大学・大学医学部の例を参考にするとこれらの公表は、行われております。又神戸大学でも、60周年記念事業として行われた記録は、医学部事務棟地下一階エレベーターホールの銅板で公表されています。同様に、昨年度から学長による招待の会が大学本部で実施されています。残り2年という期限は、深刻でもありますので、ご協力をお願いします。神緑会理事会及び医学部ワーキンググループは、より一層の活動に取り組みます。

学部長・病院長と身近な交流を一

大阪神緑会と、西部合同神緑会支部会（加古川支部を中心に、明石と姫路支部の三支部合同）を開催し、神戸大学医学部の両トップが大学や病院のおかれている現状を説明します。**大阪神緑会10月21日（土）、西部合同支部会は11月30日（木）**に多くの人が参加できる場所で行います。

全く初めての活動ですので、ふるって参加下さい。

医学専門学校、県立医大から神戸大学医学部へー 原稿募集

1) 医学専門学校

昭和24～26年卒業の皆様

26年卒業アルバムのご提供お願い（24、25は神緑会保管）

学生生活の記録、徳島医専（昭和20年8月4日の空襲により全焼した）からの移動など

2) 県立医大初期の苦難など

1～12回生近くまで

学業継続の困難など

7年間、9年間の学業や教養課程を他で終えて入学した人

教養課程を終えた人に受験資格あり、4年間の専門課程など

以下の号を含めて掲載し、最終的には平成31年4月に記念誌としてまとめる

編集後記

「卒業と入学」をテーマとした年中行事に5年生の白衣授与式が加わって、充実した内容となりました。学生・卒業生の協力もえられやすくなり、感謝です。

更に記念事業に関連し、昭和19年の兵庫県立医学専門学校が主要テーマになってきました。

50年史を基本に更に充実した内容にできる最後の機会として、皆さんが原稿をお寄せ下さい。ニュースレター、学術誌への掲載、最後は平成31年4月の記念誌として取りまとめます。

編集委員会

神緑会ニュースレター 第9巻第1号

発行 一般社団法人神緑会
会長 前田 盛
〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-1
神戸大学医学部内
TEL (078)361-0616 FAX (078)361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷 交友印刷株式会社
〒650-0047 神戸市中央区港島5丁目4-5
TEL (078)303-0088 FAX (078)303-1320
info@koyu-p.co.jp